

令和6年度 益子町立田野中学校 「学校の取り組みに関するアンケート（学校評価）」報告書

教育目標	○自ら学ぶ生徒 ○思いやりのある生徒 ○進んで鍛える生徒	今 重 点 度 目 の 標	生徒一人一人の夢や思いを大切に、確かな学力、勁さと思いやり、そして健康的で安全な学校文化の創造を地域社会との連携・協働で目指す。 【学校経営の重点ワード】 「時を守り 場を清め 礼を正す」	1 基本的生活習慣の確立と社会性の育成を目指した教育の充実	達成度	生徒・保護者アンケート、教職員評価の肯定的意見 A… 80%以上 B… 60%以上80%未満 C… 40%以上60%未満 D… 40%未満
	2 「授業第一主義」で、確かな学力を育むための学習指導の充実					
				3 豊かな心を育てる教育の充実		
				4 未来展望に基づいた自主・自立の精神と勁い心身の育成		
				5 地域社会と連携・協働で行う教育活動の推進（コミュニティスクールの推進）		

学校自己評価				学校運営協議会評価			令和7年度に向けた改善策		
現状と学校評価実施計画				達成状況					
重点	生徒の現状と課題	評価項目（主な方策）		評価指標	アンケート		達成状況と課題		
					生徒	保護者			
1	全体的に、既習内容や基礎・基本の定着が課題である。導入の工夫やめあての提示、授業を振り返る活動の充実等により授業改善を進め、学力の底上げを図る必要がある。	1	基礎・基本の定着を図るために、めあてを提示したり、導入等を工夫したりすることで、分かる授業を目指した指導法の工夫・改善を図る。	生徒・保護者・教職員を対象に実施した「アンケート」の結果（達成度）	A	A	めあての提示により、見通しを持って学習活動に取り組ませることができた。ICTの効果的な活用を図る必要がある。	令和7年2月10日(月)実施 ○評価項目1・2について、生徒の学力の状況を把握し、更なる学力向上を目指して頑張っている。 ○評価項目4について、いじめが原因での生徒の不登校等が発生しないよう、十分に配慮してほしい。 ○評価項目6(生徒)について、「一緒に考えてくれる先生」の評価が、前年度より6ポイント下がった。教育相談を充実させ、生徒の気持ちに寄り添う指導を継続してほしい。 ○評価項目7(保護者)の結果が低い。避難訓練の振り返りを家庭で実施し、家庭での避難行動について話し合う機会を設けることも有効である。 ○評価項目8(生徒)について、生徒が主体となって「生徒心得の見直し」を進め、守るべき約束を生徒が自ら考え実践しているのは、とても良いことである。 ○評価項目11(生徒)について、生徒が主体的に学校行事や部活動等に参加しているのは、とても良いことである。 ○評価項目13(保護者)について、前年度から評価が下がった。情報発信を工夫し、家庭の理解・協力を得る。 ○評価項目15(生徒・保護者)の「地域の人へのあいさつ」は、生徒・保護者共に良好な結果となっており、大変素晴らしい。	【全体】「思考力、判断力・表現力等」と、「粘り強くやり抜く力」の育成に努める。 授業を振り返る活動を更に充実させるとともに、ICTを効果的に活用することで、学習したことの確実な定着を目指す。 話し合いにより考えを深める場面と、自分の考えをまとめて書く場面を明確にした学習活動を計画する。 家庭と連携し、計画的に家庭学習に取り組ませるとともに、タブレット端末を用いた週末学習を推進する。 毎月のいじめ調査を継続し、生徒の状況把握と情報共有に努めるとともに、生徒指導主事を中心に、連携した対応ができるようにする。 多様な考えを引き出すための発問づくりを行うことで、「考え、議論する道徳」の授業の実現を目指す。 定期的な教育相談のほか、臨時の教育相談を適宜実施し、生徒の悩みの解消や問題行動の解決を図る。 各種便りやホームページを活用し、訓練の趣旨や内容等に関する情報を家庭や地域に向けて発信する。 年度当初に交通安全教室を実施する。生徒会を中心に、「生徒心得」の内容の見直しを行い、徹底を図る。 生徒が主体的に健康的な生活を送れるよう指導・支援する。 キャリア・パスポートを活用したキャリア教育の推進と、活動における地域人材の活用を図っていく。 前年度の行事の振り返りから課題を見出し、改善点を検討した上で諸計画を作成する。 目的を明示することで、生徒が主体的に活動に取り組めるようにする。 食育に関する情報を発信するとともに、活動の際に、保護者や地域の支援・協力を得られるようにする。 ホームページの内容を工夫するとともに、一斉メール配信（アンケート機能も含む）の更なる活用を図る。 学校と家庭（PTA活動も含む）・地域とのつながりを大切に、教育活動の更なる充実を図る。PTAや地域に教育活動への支援を要請する。
		2	授業では、生徒に深く考えさせるために、自分の考えを書かせたり、考えを発表させたりする場面を設ける。		A	A	各教科の授業において、自分の考えをまとめて書く活動を意図的に取り入れることができた。		
		3	生徒一人一人の家庭学習の状況を把握し、自らの課題を克服できるよう助言する。		A	B	家庭学習の習慣化を図るとともに、個々の課題に応じた指導・助言を実施した。		
2	小学校からの友人関係が固定化し、新たな人間関係の構築が難しい状況である。互いを尊重し認め合う活動を進めるとともに、学校行事や体験活動などを通し、互いを思いやる気持ちを持てるようにする必要がある。	4	生徒が互いの個性を尊重し、言葉遣いや振る舞い等に注意できるよう、思いやりにあふれた学級・学校づくりに取り組む。	A	A	A	日常の生徒観察を重視するとともに、毎月のいじめ調査によりいじめの状況を把握し、迅速な対応につなげることができた。		
		5	道徳の授業では、自分の内面に向き合い、思いを伝えたり、友達の思いを聞いたりし、多面的・多角的に学べるように工夫する。	A	A	A	自分の考えを他と共有することで、多くの考えに触れる機会を設けることができた。		
		6	生徒一人一人の気持ちに寄り添った教育支援を行う。	A	B	A	保護者と連携し、生徒一人一人の気持ちに寄り添った支援を充実させる必要がある。		
3	学校内外のルールやマナーを遵守できるよう、計画的・継続的な指導を行う必要がある。 生徒の危機回避能力を育成するために、各種避難訓練や小中合同引渡訓練を計画的に実施する。	7	避難訓練等を通して、生徒の危機回避能力の育成に努める。	A	C	A	年2回の避難訓練のほか、田野小との連携による「小中学校合同引渡し訓練」を実施した。		
		8	安心・安全で、規律ある学校生活を送れるよう指導する。	A	A	A	「生徒心得」の見直しを機会に、規律ある学校生活について生徒に考えさせることができた。		
		9	安全で健康的な生活を送れるよう指導・支援する。	A	A	A	感染症対策等を中心に、健康的な生活を送れるよう配慮した。		
4	学校行事や部活動等に意欲的に取り組む生徒が多いが、生徒が主体的に取り組む場面を設定していく必要がある。 将来に対する夢や希望を明確に持っていない生徒が多い。自己理解を深め、将来を展望できるよう、キャリア教育の充実を図る必要がある。	10	将来のことを考え、夢や希望を持つことができるようキャリア教育を推進する。	A	A	A	3年間を見通した系統的なキャリア教育の推進を図っていく必要がある。		
		11	学校行事、生徒会行事では、生徒が主体的に活動できるよう支援する。	A	A	A	生徒会活動や委員会活動を活発にし、生徒が主体的に活動できる活動の場を多く設置する。		
		12	学校の様々な教育活動を通して、粘り強くやり通す、勁い心身を育む。	A	A	A	生徒が、課題解決に向け粘り強く取り組める活動を設定する。		
5	ホームページや一斉メール等を活用し情報を発信している。地域とともにある学校づくりのために、学校の教育活動に対する理解・協力を求めていく必要がある。	13	食事の大切さを理解させ、自己健康管理ができるよう指導する。	A	B	A	家庭や地域の理解・協力を得ることにより、食育の充実を図っていく必要がある。		
		14	地域・保護者に対し、便りやホームページ等を活用し、積極的に情報を発信する。	A	A	A	必要に応じた情報発信を積極的に行い、学校・家庭・地域の連携を深める。		
		15	地域の人材や資源を活用し、地域とのつながりを大切にする。	A	A	A	学校運営協議会による協議を中心に、学校を核とした地域づくりを目指していく必要がある。		